

千葉大学病院にて婦人科腫瘍手術をおこなった 患者の皆様、ご家族の皆様へ

2025年2月1日

婦人科

婦人科では、婦人科腫瘍手術における術式の安全性に関する研究を行っており、以下に示す方の診療情報等を利用させていただきます。研究内容の詳細を知りたい方、研究に情報等を利用して欲しくない方は、末尾の相談窓口にご連絡ください。

本文書の対象となる方

2015年1月～2024年12月のあいだに婦人科腫瘍手術で大腸切除をおこなった方

1. 研究課題名

「婦人科腫瘍手術における自動縫合器を用いた大腸部分切除の安全性」

2. 研究期間

2025年承認日～2026年3月31日

この研究は、千葉大学医学部附属病院観察研究倫理審査委員会の承認を受け、病院長の許可を受けて実施するものです。

3. 研究の目的・方法

卵巣がんは、診断時にはすでに腹腔内に腫瘍が広がって転移していることが多く、特に直腸等の大腸に外側から癒着して食い込んでいることがよくあります。卵巣がんの予後因子のなかで最も重要とされているのは、腹腔内に転移した病変をできる限り摘出し、手術終了時の残存腫瘍をなしにすることです。腫瘍が大腸に癒着して剥離できない場合は、大

腸を全層切除して吻合することが多いですが、大腸への食い込みが浅く癒着の範囲が狭い場合や、大腸に複数箇所転移しており切除後吻合数が増える場合には、癒着部のみを部分切除する方法もあります。その場合、自動縫合器を用いると切除と縫合が短時間で同時に行うことができますが、術後の縫合不全や縫合部の狭窄等の合併症の有無についての報告は大変少なくわかっていません。

本研究では、卵巣がん等の婦人科腫瘍手術において、腫瘍が直腸等の大腸に癒着して剥離できないが、癒着の範囲が狭く浅い場合に、大腸の一部を自動縫合器で切除した場合の安全性について検討します。大腸の転移病変の切除が簡便に安全にできることが確認できれば、腫瘍の完全切除達成率が上がり、予後が改善することが予想されます。また、この手技の安全性が示されれば、他施設の婦人科腫瘍医にも同手技が普及し、全国の卵巣がん患者の予後が完全することが期待されます。研究の方法は、2015年1月1日～2024年12月31日の間に卵巣がん等の婦人科腫瘍手術をおこなった患者さんを対象に、2015年1月1日～2025年1月31日までの診療情報を抽出し、統計学的な解析をおこないます。

4. 研究に用いる情報の種類

カルテに記載されている、年齢、性別、既往歴、家族歴、生化学検査、血液学的検査、画像検査等の臨床検査結果、がん原発部位、組織型、ステージ、施行術式、播種の状態、完全切除の有無、大腸部分切除施行の有無、手術部位、手術合併症の有無と種類、抗がん薬投与開始までの期間、抗がん薬の種類、再発の有無と再発日、再発後の治療法、予後等の情報を取得します。

5. 研究組織

【研究機関名及び本学の研究責任者名】

研究機関：千葉大学医学部附属病院

研究責任者：婦人科 助教 錦見恭子

6. 個人情報の取り扱いについて

本研究で得られた個人情報は、氏名等の個人を特定するような情報を削除し、どなたのものかわからないように加工して、厳重に管理します。データ等は、千葉大学医学部附属病院産婦人科臨床研究室の鍵のかかる保管庫で保管します。研究結果を学術雑誌や学会で発表することがありますが、個人が特定されない形で行われます。

本研究についてご希望があれば、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で、研究計画書及び研究の方法に関する資料を入手又は閲覧する事ができますので、相談窓口までお申し出ください。個人情報の開示に係る手続きの詳細については、千葉大学のホームページをご参照ください。

(URL : <http://www.chiba-u.ac.jp/general/disclosure/security/privacy.html>)

7. 研究についての相談窓口について

研究に情報等を利用して欲しくない場合には、研究対象とせず、原則として研究結果の発表前であれば情報の削除などの対応をしますので、下記の窓口までお申し出ください。情報の利用をご了承いただけない場合でも不利益が生じる事はございません。

その他本研究に関するご質問、ご相談等がございましたら、下記の窓口にご遠慮なくお申し出ください。

相談窓口：〒260-8677

千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1

千葉大学医学部附属病院（病院長：大鳥 精司）

婦人科 助教 錦見恭子

043（222）7171 内線6611